

(第1面)

特別管理産業廃棄物処理計画書	
令和 5年 8月 4日	
京都府知事 様	
	提出者 株式会社GSユアサ 長田野事業所 住 所 京都府福知山市長田野1-37 氏 名 所長 水谷 真久 (法人にあつては、名称及び代表者の氏名) 電話番号 0773-27-2751
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条の2第10項の規定に基づき、特別管理産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。	
事業場の名称	株式会社GSユアサ 長田野事業所
事業場の所在地	京都府福知山市長田野町1-37
計画期間	2023年04月01日 ～ 2024年03月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	29 電気機械器具製造業
②事業の規模	100億円
③従業員数	1725人(長田野事業所 2023年04月01日現在)
④特別管理産業廃棄物の一連の処理の工程	別添「資料2」の通り 鉛蓄電池製造及びLiイオン蓄電池の研究施設において発生する特別管理産業廃棄物はすべて処理業者に処分を委託

(第2面)

特別管理産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

別添「資料 1」の通り

特別管理産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

① 現状	【前年度（2022年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	—	—
	排 出 量	t	t
	(これまでに実施した取組) 特になし		
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	—	—
	排 出 量	t	t
	(今後実施する予定の取組) 特になし		

特別管理産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している特別管理産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 廃棄物の種類ごとに廃棄物管理手順に従い分別、保管管理を徹底する。
②計画	(今後分別する予定の特別管理産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 上記管理の徹底を継続する

(第3面)

自ら行う特別管理産業廃棄物の再生利用に関する事項			
① 現状	【前年度（2022年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	—	—
	自ら再生利用を行った特別管理産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
	実施していない		
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	—	—
	自ら再生利用を行う特別管理産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
	実施予定なし		
自ら行う特別管理産業廃棄物の中間処理に関する事項			
① 現状	【前年度（2022年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	—	—
	自ら熱回収を行った特別管理産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した特別管理産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組)		
実施していない			
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	—	—
	自ら熱回収を行う特別管理産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量する特別管理産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
実施予定なし			

(第4面)

自ら行う特別管理産業廃棄物の埋立処分に関する事項

① 現状	【前年度（2022年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	—	—
	自ら埋立処分を行った特別管理産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組) 実施していない		
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	—	—
	自ら埋立処分を行う特別管理産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組) 実施予定なし		

特別管理産業廃棄物の処理の委託に関する事項

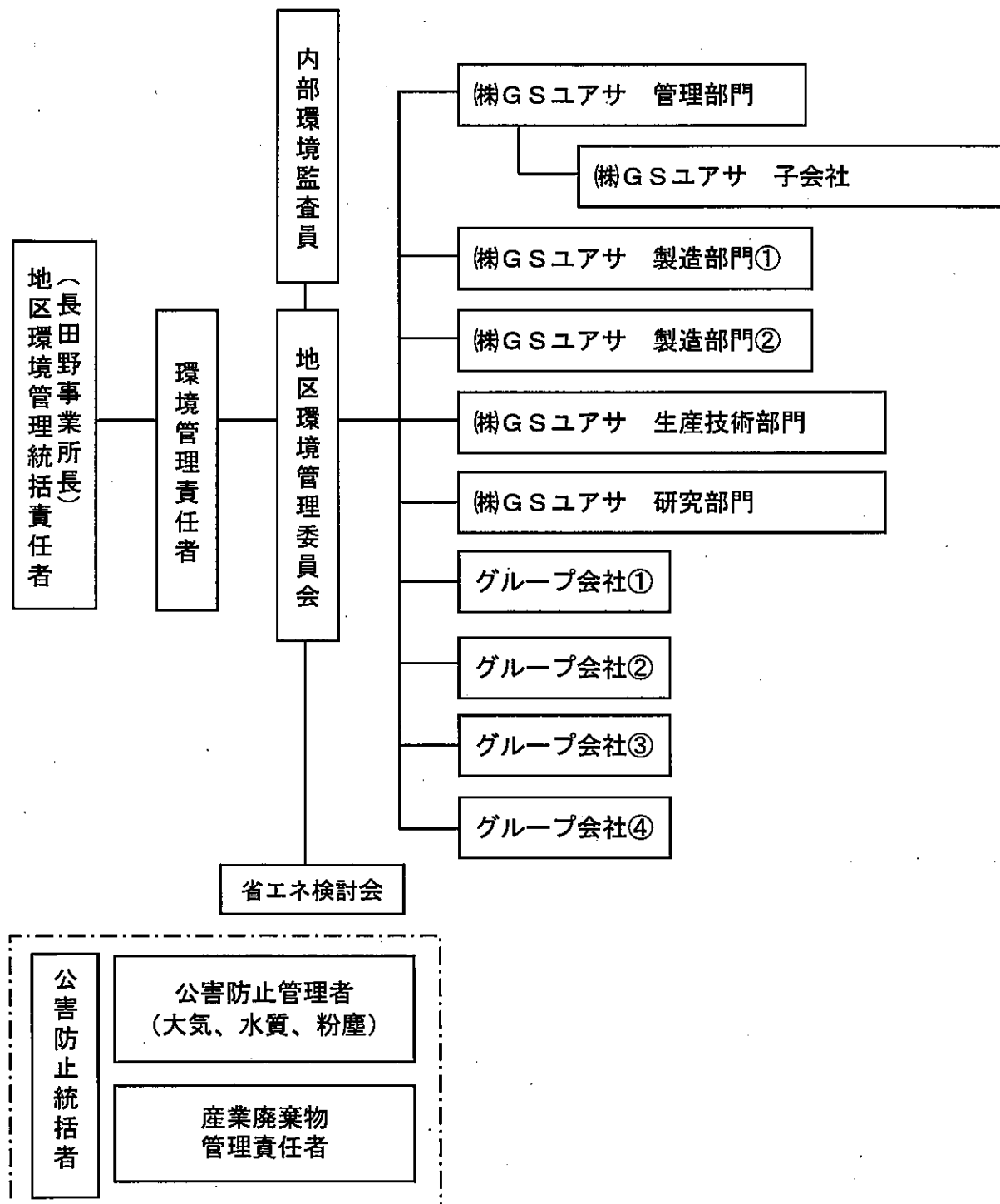
① 現状	【前年度（2022年度）実績】			
	特別管理産業廃棄物の種類			
	全処理委託量		別添「資料 2」の通り	t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量			t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	t		t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	t		t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	t		t
	(これまでに実施した取組)			
	・ 社内の産業廃棄物の適正処理再資源化ガイドラインに基づき適正な業者を選定し、書面による契約及びマニフェスト管理を実施している。 ・ 再生利用が可能な業者を優先的に選定する。 ・ 熱回収が可能な業者を優先的に選定する。			

②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類		
	全 処 理 委 託 量	別添「資料 2」の通り	t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量		t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
・再生利用が可能な業者を優先的に選定し処理業者の見直しを実施。 ・熱回収が可能な業者を優先的に選定し処理業者の見直しを実施。 ・優良認定処理業者を優先的に選定し処理業者の見直しを実施。 ・処理業者の現地視察を行い、適正処理の確認・法定順守の確認を実施する。			
電子情報処理組織の使用 に関する事項	【前年度（2022 年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物 排 出 量 (ポリ塩化ビフェニル廃棄物を除く。)	59.39 t	
	(今後実施する予定の取組等)		
※特管産廃は全て電子化済み			
※事務処理欄			

備考

- 1 前年度の特別管理産業廃棄物の発生量が50トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる特別管理産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う特別管理産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った特別管理産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「自ら行う特別管理産業廃棄物の埋立処分に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、埋立処分した量を記入すること。なお、中間処理を行うことにより特別管理産業廃棄物に該当しなくなった産業廃棄物を海洋投入処分するときは、その量も含めて記入すること。
- 6 「特別管理産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令（以下「令」という。）第6条の14第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 7 「電子情報処理組織の使用に関する事項」の欄には、前年度の特別管理産業廃棄物の全発生量（ポリ塩化ビフェニル廃棄物（令第2条の4第5号イからハまでに掲げるものをいう。）を除く。）を記入すること。その量が50トンを超える者にあつては、今後の電子情報処理組織の使用に関する取組等（情報処理センターへの登録が困難な場合として廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行規則第8条の31の4に該当するときは、その旨及び理由を含む。）について記入すること。
- 8 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、特別管理産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 9 ※欄は記入しないこと。

資料 1 環境管理に関する組織図



資料 2

特別管理産業廃棄物 2022年度実績及び2023年度処理目標

・当該事業場において現に行っている事業に関する事項

④特別管理産業廃棄物の一連の処理の工程

特別管理産業廃棄物の処理の委託に関する事項

2022年度 実績

単位: ton

廃棄物の種類	一連の処理の工程		2022年度 実績	優良認定処理業者 への処理委託量	再生利用業者 への処理委託量	認定熱回収業者 への処理委託量	認定熱回収業者 以外への 処理委託量
	発生工程	処理方法(全て委託)					
汚泥(有害) ※鉛	極板製造工程、他	焼却→セメント原料	27.65	27.65	27.65	-	27.65
汚泥(有害) ※水銀	蓄電池の研究、試験	焙焼・精製(再利用) →焙焼残渣埋め立て	0.00	0.00	0.00	-	-
廃水銀等	蓄電池の研究、試験	焙焼・精製(再利用) →焙焼残渣埋め立て	0.01	0.01	0.01	-	-
燃えやすい廃油	電解液製造工程 蓄電池の研究、試験	中和→混合エマルジョン 化	0.75	0.75	0.75	0.75	-
燃えやすい廃油	電解液製造工程	焼却→鉄鋼原料、埋立	0.09	0.09	0.09	-	0.09
強酸(有害)	電解液製造工程	中和・焼却→セメント原料	6.15	6.15	6.15	-	-
廃アルカリ(有害)	排水処理工程	中和→埋立	15.46	15.46	-	-	-
廃アルカリ(有害)	排水処理工程	焼却・溶融→土木建築資材	9.26	9.26	9.26	-	9.26
合計			59.37	59.37	43.91	0.75	37.00

2023年度 計画

単位: ton

廃棄物の種類	一連の処理の工程		2023年度 計画	優良認定処理業者 への処理委託量	再生利用業者 への処理委託量	認定熱回収業者 への処理委託量	認定熱回収業者 以外への 処理委託量
	発生工程	処理方法(全て委託)					
汚泥(有害) ※鉛	極板製造工程、他	コンクリート混練 中和→埋立	27.00	27.00	27.00	-	27.00
汚泥(有害) ※水銀	蓄電池の研究、試験	焼却→セメント原料	0.01	0.01	0.01	-	-
廃水銀等	蓄電池の研究、試験	焼却→セメント原料	0.01	0.01	0.01	-	-
燃えやすい廃油	電解液製造工程 蓄電池の研究、試験	焼却→鉄鋼原料、埋立	1.00	1.00	1.00	1.00	-
燃えやすい廃油	電解液製造工程	中和→製品原料、埋立	0.10	0.10	0.10	-	0.10
強酸(有害)	電解液製造工程	中和・焼却→セメント原料	6.00	6.00	-	-	-
廃アルカリ(有害)	排水処理工程	中和→鉄鋼原料	15.00	15.00	-	-	-
廃アルカリ(有害)	排水処理工程	中和→鉄鋼原料	9.00	9.00	9.00	-	9.00
合計			58.12	58.12	37.12	1.00	36.10

資料 1 環境管理に関する組織図

